

# 琵琶湖「鳥人間コンテスト」



2011年 11月 16日 芝崎 昭夫

- 京滋支部 -

# 自己紹介

- 東京都品川区出身、現在滋賀県守山市在住
- '70年(昭和45年)応用化学卒 旭化成(株)入社
- ポリエステルフィルムの基本開発(研究所～パイロット)
- スパンボンド不織布のプロセス開発、新製品開発、省力化等における基礎から応用までの開発
- 趣味:テニス、旅行、麻雀、スポーツ観戦
  - 10月に行なわれた「ねんりんピック」(シニアの国体)熊本大会のテニス部門に出場(滋賀県代表)

# 「鳥人間コンテスト」とは?

- 読売テレビ主催により、毎年夏に琵琶湖(彦根、松原水泳場)で開催され、
- 人力飛行機の飛行距離や時間を競う競技会である。
- 現在は、
  - 滑空機部門
  - 人力プロペラ機タイムトライアル部門
  - 人力プロペラ機ディスタンス部門の3部門に分かれている)

# 「鳥人間コンテスト」とは?

- 1977年に第1回が開催されて以降、今年で34回を数える長寿番組であり、日本テレビ系列での夏の風物詩にもなっている。
- 東工大「Meister」は1997年(台風で大会は中止)から、「人カプロペラ機ディスタンス部門」にエントリーしている。

# 大会の歴史 1

## (「Meister」参加の1997年より前)

- 第1回 (1977) : 飛距離を競ったが、いずれもハンググライダーの改良型程度で、
  - 1位が82m、 2位は60m以下。
- 第2~9回 (~1985) : コミックエントリーが中心で、飛距離ではなく、面白い飛び方を競った。(飛距離は第9回の1位で290m)
- 第10回 (1986) ~ 第20回 (1996) : 滑空機部門、人カプロペラ機部門に分け、女性パイロット部門を設ける年もあった。

# 人カプロペラ機部門の記録 (第10回~第20回)

- 第10回: 1位512m(ヤマハ)、2位280m(ヤマハ)
- 第11回: 強風の下、1位436m(日大)、2位82m
- 第12回 & 第13回: 強風のため、人カプロペラ機部門は中止
- 第14回: 1位1,810m(日大)、2位513m(ヤマハ)
- 第15回: 1位500m(日大) ヤマハは64m
- 第16回: 1位2,020m(ヤマハ)、2位1,226m(日大)、3位(トヨタ)
- 第17回: 1位2,180m(日大)、2位619m(京大)
- 第18回: 1位2,372m(日大)、4位310m(京大)、5位(ヤマハ)
- 第19回: 1位8,764m(ヤマハ)、2位6,411m(トヨタ)、3位(日大)
- 第20回: 1位9,762m(大阪府立大)、2位7,973m(ヤマハ)  
3位5,209m(日大)、4位4,869m(トヨタ)

# 大会の歴史 2-1

## (「Meister」参加の1997年以降)

- 第21回(1997): 台風のため、大会はすべての部門で**中止**。  
(「Meister」はエントリーのみ)
- 第21~23回: 滑空機部門、人力プロペラ機部門に加え、  
チャレンジ部門(飛距離だけでなく、機体デザイン・コンセプト  
等を競う)が設けられたが、この期間だけで消滅!  
(飛行距離が60m以下)
- 第25~27回: チャレンジ部門に替わり、「人力ヘリコプター部門」  
が新設されたが、安全な離陸ができない恐れがあり、  
第27回で消滅!

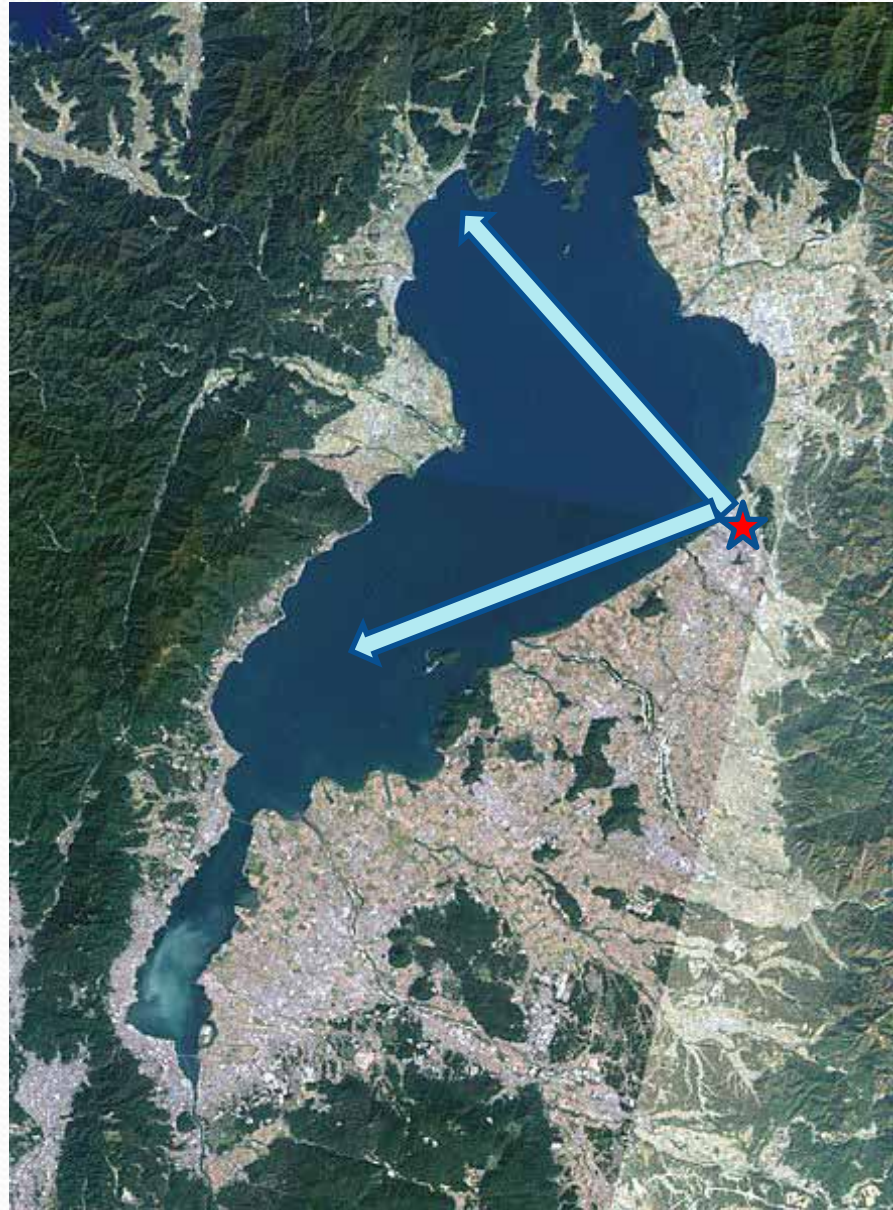
# 大会の歴史 2-2

(「Meister」参加の1997年以降)

- 第30回~: 滑空機部門、人力プロペラ機ディスタンス部門、人力プロペラ機タイムトライアル部門の3部門とし、今日に至る。
- 2009年は読売テレビの赤字、地テレビの設備投資等に伴う全社的な経費削減を理由に開催を中止。  
(競技の全面中止は1997年以來であるが、天候以外の理由による中止は初めて)



# 飛行経路



# 人カプロペラ機(ディスタンス)部門の 記録(第21回~第25回)

- 第21回: 台風のためすべて中止。
- 第22回: 1位23,688m(ヤマハ: 琵琶湖北岸へ到達する快挙)
- 第23回(強風): 1位4,913m(大阪府大)、2位3,097m(日大)  
(注)「Meister」: 9位44m、タレントの荻原次晴氏が操縦
- 第24回(強風): 1位7,946m(大阪府大)、  
(注)「Meister」: 4位381m、前年に続きタレントの荻原次晴氏が操縦
- 第25回(風): 1位3,824m(東工大)、2位3,036m(トヨタ)、3位  
2,188m(日大)、4位2,183m(大阪府大)、5位1,710m(東北大)

# 人カプロペラ機(ディスタンス)部門の 記録(第26回~第29回)

- 第26回:1位6,202m(東工大)、2位3,004m(大阪府大)  
3位1,290m(東北大)、(注)東工大2連覇
- 第27回:1位34,654m(日大)、2位32,178m(東工大)、  
3位 24,823m(東北大)  
(注)日大は琵琶湖大橋直前で、強制着水
- 第28回:台風の影響で、半数がフライトできず。
- 第29回:1位22,813m(日大:折返し)、3位12,445m(東工大)

# 人力プロペラ機(ディスタンス)部門の 記録(第30回~第32回)

- 第30回:1位28,628m(東北大)、2位5,451m(日大)  
(注) 東工大は失格(禁止区域を飛行し、かつパイロットが負傷)
- 第31回:1位3,998m(東工大)、2位3,673m(東北大)、  
3位1,905m(京大)、4位1,390m(日大)
- 第32回:1位36,000m(東北大:折返し、完全飛行)、  
(2008年)2位3,044m(芝浦工大)、3位2,015m(京大)、  
4位1,555m(東工大)  
(注1) 朝1番、無風で飛んだ東北大、一方、ラストで強風下の  
向かい風を飛んだ東工大。  
(注2) 大会終了1時間後に暴風となり、プラットフォーム撤去作業者が  
負傷する事故あり。

# 人カプロペラ機(ディスタンス)部門の 記録(第33回~第34回)

- 第33回を予定した2009年は、TV局の諸般の事情で  
大会中止！  
(東北大、東工大だけで、野洲の水泳場で自主開催)
- 第33回：1位18,557m(東工大)、2位11,457m(東北大)
- 第34回：1位18,687m(東北大)、2位8,182m(東工大)  
(注)東工大パイロットは、大会3週間前の練習中に交通事故に遭い、  
急遽、第33回出場のパイロットが代行した。

# 2009年の自主開催の状況

## - 大会は中止 -

- **東工大**、東北大が野洲市の「マイアミ浜」のビーチバレー会場を早朝借用し、ベニヤ板を敷いた「臨時滑走路」からのフライト。  
(一般の水泳客への影響を考慮し、それぞれ別の日に飛行した)
- 結果は直線距離で、東北大:10km、**東工大**:4.5km。

- 自主開催した背景
  - 「Meister」は毎年3年生が主役の活動を行なっている。  
(2年間は下積で先輩の活動内容を勉強し、3年生がその年の機体設計、製作からパイロット養成等、すべてを分担して責任を持つ体制)
  - 甲子園での高校野球と一緒に、そこを目指して頑張ってきたのに、急にその年だけ中止と言われても、3年生の部員の落胆は大きい！
  - 読売テレビから、自主開催は止めて欲しい旨の申し入れがあったものの、それを無視して実行したため、多少のトラブルにもなった。







# 人カプロペラ機(ディスタンス)部門の 記録(第33回~第34回)

- 第33回を予定した2009年は、TV局の諸般の事情で  
大会中止！  
(東北大、東工大だけで、野洲の水泳場で自主開催)
- 第33回:1位18,557m(東工大)、2位11,457m(東北大)  
(2010年)
- 第34回:1位18,687m(東北大)、2位8,182m(東工大)  
(注)東工大パイロットは、大会3週間前の練習中に交通事故に遭い、  
急遽、第33回出場のパイロットが代行した。



# 悔し涙のパイロット



一転、歓喜の胴上げ！



# 人カプロペラ機(ディスタンス)部門の 記録(第33回~第34回)

- 第33回を予定した2009年は、TV局の諸般の事情で  
大会中止！  
(東北大、東工大だけで、野洲の水泳場で自主開催)
- 第33回:1位18,557m(東工大)、2位11,457m(東北大)
- 第34回:1位18,687m(東北大)、2位8,182m(東工大)  
(2011年)  
(注)東工大パイロットは、大会3週間前の練習中に交通事故に遭い、  
急遽、第33回出場のパイロットが代行した。



# 必死の応援！





# OB達も応援！



# 蔵前京滋支部の 「Meister」への応援体制

- 第32回(2008年)から支部幹事を中心に、大会前日に冷たいドリンク類をクーラー(4~5個)に詰めて彦根まで届け、大会当日は早朝から現地で応援。  
(「Meister」:総勢70~80名)
- 分解して搬送した飛行機を、大会前日に組み立てて機体検査を受け、これを再度分解し、フライト直前に再び組み立て直すという困難な作業を暑い中、チームワークにより行っている。

# 大勢のMeister 部員



# 「鳥人間コンテスト」を 観戦しての個人的感想

- チーム全員が参加しての総合力が問われ、大空へ挑戦し、最後は自然条件という「運」までが加わった素晴らしいイベント。  
(機体設計、製作、パイロット、ナビゲーション等、どれがダメでもダメ)
- 「ものづくり」、「上下関係を含めたチームワーク」という現代の若者たちにとり、特に重要と思われる要素を多く持つ。

# 蔵前関係の皆様へ

- 「Meister」の益々の活躍に向け、京滋支部  
会員だけでなく、多くの皆様に現地(彦根)に  
応援に行ってください！
  - 前日、他の部門の収録も見られます
  - 近くの「彦根城」・「竹生島」・「伊吹山」観光も可能です